

3月27日 名古屋港管理組合議会 3月定例会 高橋ゆうすけ議員

# 空見ふ頭の大規模展示場整備より金城ふ頭の整備優先を 空見ふ頭への建設で名古屋港が発展するのか

名古屋港管理組合議会の3月定例会が3月27日に行われ、高橋ゆうすけ議員が一般質問を行いました。

## 大規模展示場建設にふさわしい場所か

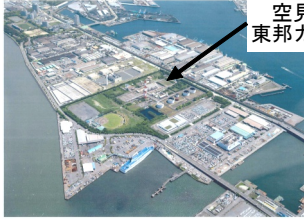
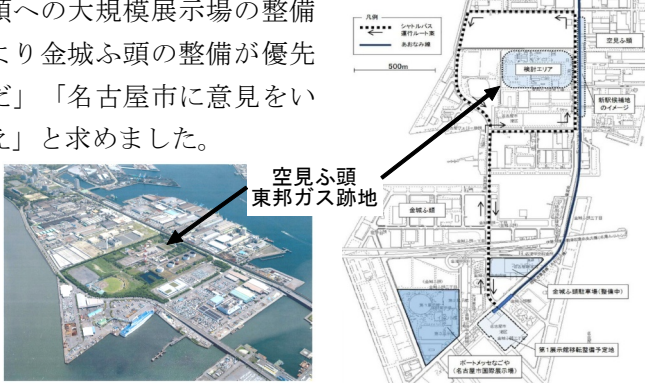
高橋議員は「空見ふ頭への大規模展示場建設」について昨年3月の名港議会でも質問し、この地域が工業の用に供する用地とされており安全面の確保にも課題が大きいことが明らかとなりました。先日閉会した名古屋市会2月定例会では、空見ふ頭への大規模展示場建設に向けた調査費が付帯決議付きの賛成多数で可決されています。

大規模展示場を建設するには、この地域の土地利用の計画を見直さなければなりません。高橋議員は、「この場所が大規模展示場施設建設場所としてふさわしい地域なのか。レゴランド開業に応じて自動車交通の区分けを計画している地域で、渋滞が発生して物流機能が損なわれるのではないかと」ただしました。

## 産業や物流の拠点

管理組合は「空見ふ頭は、産業や物流の拠点としての利用を見込む。渋滞等による産業や物流へ大変大きな影響が生じることが懸念される」と答えました。

「空見ふ頭への大規模展示場の建設は、名古屋港の発展に資するか」との質問には「既存の産業や物流に大きな影響が懸念される」と答弁。高橋議員は「空見ふ頭への大規模展示場の整備より金城ふ頭の整備が優先だ」「名古屋市に意見をいえ」と求めました。



# ポートアイランドの活用調査・・・ アクセスには莫大な費用など課題が多すぎる

ポートアイランドは、名古屋港の航路及び泊地で毎年約100万㎡発生しているしゅんせつ土砂を受け入れるために、国が埋め立てを行っている区域です。現在も、埋め立てが進められており、区分上は水面です。将来、物流・産業・交流・環境などの利用が想定されます。

## 橋で1000～1800億円、トンネルで1300～3700億円

本年度予算でポートアイランドへのアクセスルートの検討調査が行われ、6つのアクセスルートが報告され、橋りょうなら長さ3,400m～7,300mで桁下高は水面上69mで1,000億から1,800億円。トンネルなら長さ2,200m～8,300mで天端高は水面から-18mから-69m、



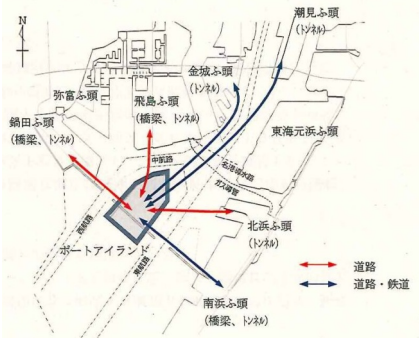
費用は1,300～3,700億円という結果でした。高橋議員は「管理組合としてどう考えるか」とただしました。当局は「大型船舶の航行を

始めとする名古屋港の機能維持を図るためには、大規模な施設が必要」と答えました。

## 予定より5m以上も高く積み上げた土砂が問題

ポートアイランドは受け入れたしゅんせつ土砂が予定より5.31mを超え、16mの高さまで土砂が積み上げられ、あと数年が限度です。積み上げた土砂が地震などの発災時に港内へ流出して航路をふさぐ恐れや、仮置き土砂の処理、土地活用にあたっての地盤改良など課題は山積みです。

高橋議員は「再生可能エネルギー施設など、費用対効果も考え、作らないという選択肢もある。橋やトンネル以外に船もある」と指摘しました。



ポートアイランド・アクセス調査より